

日本基督教団 麻布南部坂教会会報

2021 (令和3年) 7. 11

牧師 松谷 祐二

〒106-0047 東京都港区南麻布4-5-6 Tel & Fax 03 (3473) 1276
E-mail church@nanbuzaka.com http://www.nanbuzaka.com/

印刷 有限会社 創文社 Tel (3491) 8321

祈禱会 第2日曜日 礼拝後
成人会 第3日曜日 礼拝後
婦人会 第4日曜日 礼拝後
教会附属 南部坂幼稚園

第1日曜日
主日第一礼拝 9:00~
主日第二礼拝 10:30~
その他の日曜日
教会学校 9:00~
主日第一礼拝 9:00~
主日第二礼拝 10:30~

「歴史の意味」

牧師 松谷 祐二

イザヤ書 第一四章一〜一五節

まことに、主はヤコブを憐れみ、再びイスラエルを選び、彼らの土地に置いてくださる。寄留の民は彼らに加わり、ヤコブの家に結び付く。

もろもろの民は、彼らをその土地に連れて来るが、イスラエルの家は、主の土地で、もろもろの民を男女の奴隷にして自分のものとする。かつて、彼らを捕囚とした者が、かえって彼らの捕囚となり、かつて、彼らを虐げた者が彼らに支配される。

主が、あなたに負わせられた苦痛と悩みと厳しい労役から、あなたを解放される日が来る。そのとき、あなたはバビロンの王に対して、この嘲りの歌をうたう。

ああ、虐げる者は滅び、その抑圧は終わつた。主は、逆らう者の杖と、支配者の鞭を折られた。かつて、彼らは激怒して諸民族を撃ち、撃つて、とどまることを知らなかった。また、怒って諸国民を支配し、仮借なく踏みにじった。しかし今、全世界は安らかに憩い、喜びの声を放つ。糸杉もレバノン杉も、お前のことで喜ぶ。「ついに、お前が倒れたから、もはや、切り倒す者が、我々に向かつて来ることはない。」地下では、陰府が騒ぎを起す。お前が来るのを迎えて。そして、亡霊たちを呼び覚ます。地上では、すべてつわものであった者らを、また、その王座から立ち上げさせる。諸国の王であった者らを皆、彼らはこそつてお前を迎え、そして言う。「お前も我々のように無力にされた。お前も我々と同じようになつた。」お前の高ぶりは、琴の響きと共に、陰府に落ちた。蛆がお前の下に寝床となり、虫がお前を覆う。

ああ、お前は天から落ちた、明けの明星、曙の子よ。お前は地に投げ落とされた、もろもろの国を倒した者よ。かつて、お前は心に思った。「わたしは天に上り、王座を神の星よりも高く据え

神々の集う北の果ての山に座し雲の頂に登つていと高き者になる」と。しかし、お前は陰府に落とされた、墓穴の底に。(新共同訳聖書)

紀元前五八七年、新バビロニア王国のネブカドネザル二世がユダ王国の都エルサレムを攻め、陥落させました。ダビデ王朝は滅亡し、最後の王をはじめエルサレムの住民多数が捕虜となつて、新バビロニアの首都バビロンへ連行されました。この状態はなお数十年続き、後に「バビロン捕囚」と称され、記憶されるようになります。これは、世界の多少詳しい本になら載っている出来事です。

新バビロニア王国(以下、簡単にバビロンと呼びます)は、当時の中東世界で強国にのしあがり、周囲の大小の国々を次々に打ち負かしました。バビロンはなぜ強かったか。バビロンはどんな世界戦略を描いていたか。古代史を研究する人なら、そういった視点で調べ、書くかもしれません。しかし、聖書はこの歴史上の出来事を、まったく違った視点から描きます。「バビロン捕囚」は、神がユダ王国を処罰なさった出来事であった、と。

ユダ王国の人々は、神にとつて特別な民でした。彼らはアブラハムの末裔であり、神から「イスラエル」の名を賜つたヤコブの子孫です。彼らがエジプトで奴隷の状態にあつたとき、神はモーセを遣わして彼らを救い出し、「約束の地」(現在のイスラエル・パレスチナ)へと導き入れました。彼らは、やがて神に愛された人ダビデを王にいただき、神はダビデに「あなたの王座をとしえに堅く据える」とも約束してくださっていました。

しかし、そういう特別な存在であつたはずのユダ王国(以下、簡単に「イスラエル」と呼びます)が神に対して背きを重ね続けた結果、神の審判を受け、滅ぼされるに至つた。イスラエルを攻めた強国バビロンは、実は、神がイスラエルを罰するために振るわれた剣でした。

イスラエルを倒したバビロンは勝者です。そのあたりの時代に限って言えば、覇者です。が、そのバビロンもやがてペルシアに敗れて力を失いま

す。なぜバビロンは衰微したか。ここから平家物語風に「盛者必衰の理」を見て取ることもできましよう。しかし聖書は、「理」ではなく神が歴史を導いておられること、おごり高ぶる者、虐げる者はだれであれ、神が引き下ろし、滅ぼされることを、わたしたちに教えます。——バビロンがイスラエルを倒せたのは、神がイスラエルを処罰するための剣として用いられたからにすぎない。バビロンの勝利は、バビロン自身が正義であることの保証にはならない。神が、ご自分の大切な民イスラエルをも、その甚だしい背きのゆえに処罰なさつたとすれば、バビロンが勝利に酔つて有頂天になり、国々を虐げたことそれ自体も、神の審判をまぬがれはしない——。聖書は、厳肅にそう告げます。わたしたちが知る現代世界の国々、アメリカも、中国も、現代のイスラエルも、もちろん日本も、このことをわきまえておくべきです。

さて、バビロンがペルシアに倒されたことで、イスラエルは捕囚から解放されますが、聖書はその出来事にも「神の憐み、赦し」という意味があることを教えます。神は罪を犯したイスラエルを処罰されましたが、永久に怒り続けるのではなく、再び憐れんでお赦しになるのです。「まことに、主はヤコブを憐れみ、再びイスラエルを選び、彼の土地に置いてくださる」。

神の審判、処罰という考えはわたしたちにとつて厳しく、恐ろしく感じられます。しかし、神が歴史の中であえて審判を下し、処罰をなさるのは、最終的に憐み、赦すことを旨とされる方だからです。神の子イエス・キリストの十字架の死において、そのことがもつとも鮮明に現れています。神の子である方が究極の審判、処罰を受けてくださり、それによつてわたしたちが、神の憐れみと赦しを受ける。このことをめざして、神は歴史のすべてを導いておられる。そう信じるとき、わたしたちは、たとえ混沌とした、厳しい現実の中にあつても、この歴史の中、この世界の中に生かされていること自体が、深い神の愛によるものだとわかつてくるのだと思います。

役員に再任所感

菊池 才知子

主の聖名を讃美致します。
役員休任期が明けた二〇二〇年はコロナ禍により教会年次総会が中止となり、役員として奉仕できませんでした。尤も過去の役員としての私は、枯れ木も山の賑わいのな、教会規則に適合する員数を揃える役割しか果たしていませんでしたが。

左右の脚長差が原因による右側仙腸関節の不快感と、整形外科医の見立てによれば幅広の足に合わない細い靴をはいた結果両足の甲に炎症と腫れが生じ、靴を履いて歩くことがなんとも億劫という、体力の著しい低下を強く自覚させられています。

残念ながら過去にも増してエネルギーをシユに奉仕する役員になることはあり得ません。マア、しかし休任期中も奉仕しておりました毎主日の週報のプリントアウト奉仕は続けられることを、嬉しいことに思います。

それにしても、マスクをせずに日常生活を送れるようになりたいですね。スポーツクラブのホットスタディオはヨガ、ピラティスのレッスンを身体が動きやすいと毎日二レッスン受講して約二ヶ月、一週間前途中で頭痛が起きて慌てました。換気なしの室温三十二度に設定したスタディオで顔の半分をマスクで覆って運動すれば、これは熱中症の初期症状？と我が体内アラームが作動したと感じ、八三歳の顔面が体熱放射ラヂエーターになっている私にはきつかったと、以後ホットレッスンは休止することになりました。換気をする若し人たちはこれではホットスタディオではないと思うようです。

新役員の抱負とは関係のない愚痴録になつてしまいましたが。

恵まれた時に感謝

ヤング 肇子

コロナ対策によって随分皆様とお目にかかる事が出来ない日々が続きました。本当に長く感じました。コロナワクチンも進んで行き、心配をせず不安にならず礼拝に皆さんで集える日が一日も早く来ると信じています。それに加え、これからは暑さとの戦いもあります。とにかく適度な運動と、しっかりお食事を召し上がることで皆さまの健康が守られるようにいつもお祈りしています。

共に礼拝に集まらないこの長い期間、松谷牧師は一人でずっとメッセージを語って下さり、またオルガンで賛美を捧げて下さった大司宣子姉にも感謝が絶えません。

この度、麻布南部坂教会において、初めて役員としてのお役目を頂きました。全く経験のない私ですが、松谷先生や皆様に支えられ教えて頂きながら、お役に立てるよう努めさせて頂きたいと思っております。どうか宜しくお願い致します。

私は今年八月から一カ月間、京都にある日本基督教団向日町教会に、夏季伝道のために東京神学大学より遣わされることになりました。様々なご奉仕が要求されていますので、体調に十分気を付けて訓練と学びを受けてきたいと思っています。今年四年生となり、神学生として、またキリスト者として神さまが成長を与えて下さることを本当に祈る毎日です。

今年入学してこられた新入生には、若い二十代の方から八十五才の方まで様々な召命感を与えられて学んでおられます。卒業までの数年間の間に自分自身の召命感に疑問をもって悩み始める学生もいます。誰で

も一度や二度は考えることもかもしれません。学業だけに限らず学生同士の人間関係、特に寮生は共同生活ですから、各自意見の受け取り方に温度差もありますし、和を保てない人もいます。この寮生活での訓練は卒業後に教会へ派遣される時の為のすぐれた訓練の場でもあり、また大学院に上がる時、先生方からの一つのフィルターの役目もするのうに感じます。

五月から、この新しい寮の生活は各ユニットに三名ずつ、これはコロナの関係で少人数となっておりますが、私のユニットでの住人の年齢は二十年ごとの世代、つまり二十代、四十代、六十代となっており、孫娘、娘、祖母という家族のごとく、結構楽しく過ごしています。

東京神学大学の学業が終わるまで、麻布南部坂教会において皆様に支えられて、そして共に過ごせる、この貴重な恵みの時間が与えられたことを感謝しています。

報告

*六月二十七日から、礼拝堂での主日第一・第二礼拝、教会学校を再開しました。無理なく礼拝出席可能な方はお集まりください。

*二〇二一年度定期教会総会(書面総会)の「議決権行使書」、ならびに役員選挙の結果、すべての議案は承認、可決されました。また、以下の方々が過半数の票を得て、今年度の役員に選出されました。

菊池才知子、佐藤マリエ、佐柳理久、宍戸健太、宍戸信次郎、ヤング肇子(五十音順、敬称略) 役員となられた兄弟姉妹のお働きのためにお祈りください。なお、ヤング肇子姉は初めての役員となられるため、六月二十七日(日)の主日礼拝において役員就任式を行いました。
*六月二十六日(土) 十四時より、当教会

婦人会

《各部報告》

日時 六月二十七日 主日礼拝後
場所 教会堂会議室
出席者 七名
開会祈祷 菊池才知子姉
閉会祈祷 各自小祈禱
内容

聖書研究 サムエル記下八〜十章
イスラエル十二部族の王となったダビデはペリシテ人をはじめとする近隣の敵対諸民族とその支援部族を平定した。主はダビデの遠征する先々で勝利を与えられた。

ダビデはサウル王の息子ヨナタンに主の御前で誓った約束を履行すべくサウル王家の生存者を探させた。ヨナタンの遺児で両足に障害を持つメフィボシエトを見出したダビデは、サウル家の所有であった資産をすべて彼に与え、家臣であったツイバに運営を命じた。更に、メフィボシエトが常にダビデと食卓を共にするように計らった。

その後、アラムの援軍を得たアンモン人と紛争となった。ダビデの司令官ヨアブはアビシヤイと共に戦列を整えてアラム軍に立向い、イスラエルに隷属させた。

以上が、主が良しとするダビデの行動態度であった。
次回 七月二十五日「サムエル記 下」
十一章、十二章まで

